



インタビュー

人と自然が共存する循環型社会をめざして

ユニー株式会社は販売活動を通じて、お客様とともに環境への取り組みにチャレンジしています。環境に配慮した新店舗の建設、ゴミの分別回収やリサイクル、エコ商品の販売などを進めます。

お客様に愛されるユニーであるために

— 本日はユニーの環境への取り組みを統括している磯見洋取締役業務本部長に、環境活動についてお話を伺います。

磯見「ユニー本部がある愛知県では、2005年に環境万博ともいわれる愛知万博が開催されることもあり、地域の皆様の環境問題への意識は非常に高いですね。再生資源を原料とした商品、分別回収したゴミのリサイクル方法などへの質問や意見がたくさん寄せられています。そんな中、ユニーがお客様に愛され支持され続けるためには、日ごろから環境活動に真摯に取り組む姿勢が大切だと思います」

— レジ袋を減らすためにマイバッグキャンペーンを行ったり、リサイクルボックスを設置したりと、様々な活動を進めていますよね。

磯見「レジ袋の削減活動は1989年から始めました。リサイクルボックスは10年以上前から置いてあります。根気よく続けることが大切です。今まではあまりお客様にPRできていませんでしたが、この報告書のように様々な形での情報公開は必要ですね」

— 牛乳パックやアルミ缶などを回収するリサイクルボックスや、可燃ゴミと不

燃ゴミに分けた分別ゴミ箱もすっかり浸透しました。磯見「ゴミには、仕入れ時に発生するダンボールなど

の"入ってくるゴミ"と、生ゴミや家電製品の梱包用発泡スチロール、食品トレイなどの"出るゴミ"、お客様が"お買い上げ後に出るゴミ"の3種類があります。入ってくるゴミについては、何度でも利用できる通い箱を用い、ゴミの削減に努めます。出るゴミについては、その種類によって再資源化の方法が違います。切りくずなどの生ゴミは肥料として再利用し、発泡スチロールはプラスチックチップにして再資源化を図ります。食品トレイはフラワーポットやベンチの原料として再生します。お買い上げ後に出るゴミは、リサイクルボックスなどで回収後、牛乳パックはトイレトーパーに再生、アルミ缶はアルミの製造過程で必要な電気の節約に役立つため再利用します」



取締役 業務本部長
磯見 洋

昭和44年 当社入社
昭和51年 名港店店長
昭和56年 中京本部 本部長室長
平成7年 取締役開発本部長
平成15年 取締役業務本部長
現在にいたる。

新しい店舗づくりにもきめ細やかな配慮を

— 店舗を建てる時に、環境に配慮していることを教えてください。

磯見「新店舗ができる時、一番に周辺環境に及ぼす影響を考えます。特に問題となるのが人の声や車の音などの騒音です。音は風に乗って伝わりますから、周辺の住宅地域に影響が少ないよう、店舗の位置や向きなどを決めます」

— 店舗では朝早くから搬入のトラックが入り来りますから、特に早朝の騒音には気を遣いますね。

磯見「そういった意味でも、バックヤードの位置は重要です。そのほか、駐車場はお客様に使いやすいゆとりを持たせたスペースをとり、スロープの高さを計算して、お客様の車が入り来りするときの音を抑える工夫などもしています。アピタ長久手店の建設時には、緑地帯による遮音効果を狙い、店舗に隣接して公園を設けました」

— 音のほかに、店舗で出るゴミへの対策についてはどうですか。

磯見「まず、働く人が当たり前のことを当たり前にできる環境づくりということを考

えています。バックヤードの作業スペースは広く取り、ダンボールなどを運ぶ動線はできるだけ短くしてあります。生ゴミは臭いを抑えるため冷蔵して作業を進めていますし、水での掃除がしやすいように床には少し傾斜をつけてあります」

— 店頭には環境に配慮した商品がたくさん並んでいますね。

磯見「省エネの電化製品、再生資源が原料のトイレトーパー、大気や水、土を汚さない原料で作られた洗剤などです。また、環境配慮商品のコーナーも設置しています。お客様へ環境に配慮した商品を提供することで、少しでも自然環境保護に貢献できたらと思います」

— では最後に今期の取り組みを教えてください。

磯見「環境活動は永続的なものです。継続的に取り組んでいくために、来期は環境マネジメントシステム、ISO14001の認証取得を目指します。『身近なところから、そして、ずっと続けて』が環境活動の精神です」



「環境にやさしい生活」を提案します。

環境会議

ユニーでは「環境指針」に基づき、生活者に一番近いところにある企業として、環境負荷をできるだけ少なく省エネ・省資源で運営できる店作り、及び環境に配慮した商品の販売、サービスの提供に取り組んでいます。

環境会議には、各本部の担当部署から代表者が集まり、

- ・店舗から排出される廃棄物の削減
- ・環境にやさしい商品の販売拡大
- ・省エネ・省資源への取り組み
- ・地域とのコミュニケーション

などのテーマについて検討し、それぞれの役割においてより有効な活動を図るよう努めています。

より少ない資源・エネルギーでより多くのお客様満足を実現するために、環境会議では継続的な改善を進めていきます。

